

鹿児島市内圃場【青果用大根】編

■試験の目的

本試験は、下水汚泥肥料の窒素肥効率やカリウム成分の補給効果の検証を行うものです。

■試験方法

鹿児島市内の圃場では、以下の２区画に分けて施肥試験を行います。

区分	肥料構成	特徴
区分 1	化学肥料	従来の施肥方法による 比較対象区
区分 2	下水汚泥肥料+化学肥料	基肥は下水汚泥肥料のみ 不足するカリウム分を化学肥料で補給

■施肥設計

試験区分	基		肥 (kg/10a)					合計 (kg/10a)				
	肥料名	施用量	成分量					成分量				
			窒素	りん酸	カリ	カルシウム	マグネシウム	窒素	りん酸	カリ	カルシウム	マグネシウム
区分 1	苦土石灰	120				38.0	18.0	14.0	25.0	12.0	38.0	18.0
	苦土重焼燐	20		7.0								
	BM38号	80	8.0	16.0	6.0							
	燐硝安加里S646(16-4-16)	40	6.0	2.0	6.0							
	ほう砂	2										
区分 2	苦土石灰	40				13.0	6.0	14.0	25.0	13.0	39.0	10.0
	苦土重焼燐											
	BM38号	40	4.0	8.0	3.0							
	燐硝安加里S646(16-4-16)	40	6.0	2.0	6.0							
	ほう砂	2										
	マグマソイル	400	4.0	15.0	1.0	26.0	4.0					
	硫酸加里	5			3.0							
※ 全窒素のうち、アンモニア態窒素 1 %のみを有効とし、窒素施肥量とする。												

区分 1：慣行の化学肥料主体の施肥

区分 2：基肥にマグマソイルを慣行栽培と同程度の窒素になるよう施用し、不足するカリを硫酸カリで補給。

■試験期間

令和 7 年 9 月～令和 7 年 12 月

【鹿児島市内の圃場での取り組み】

鹿児島市内では、農業生産者の協力のもと、休耕地だった 10a の圃場にて青果用大根を対象に施肥試験を実施しています。使用する下水汚泥肥料は鹿児島県の施用ガイドライン（10a あたり 500kg）を遵守し、安全性と肥効効果の両面から評価を行っています。

今後は、青果用大根の収穫後に品質や生育状況を分析し、他作物への応用可能についても検討していく予定です。